

平成 30 年 10 月 25 日

ポリファーマシー（多剤併用）の現状を明らかに 国内の状況は改善傾向を示す

◆発表のポイント

- ・医療費の増加や薬剤同士の予期せぬ相互作用が懸念されるポリファーマシー（多剤併用）について、7 年間にわたる全国的な状況を調査しました。
- ・ポリファーマシーは 2012～2013 年を境に減少に転じたことを明らかにしました。
- ・本研究成果を医療の改善に役立てることで、医療関連の SDGs への貢献が期待されます。

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の狩野光伸教授・大学院医歯薬学総合研究科（薬）の小山敏広助教らの研究グループは、岡山大学病院の千堂年昭教授、北村佳久准教授、建部泰久氏、札幌医科大学の樋之津史郎教授、虎の門病院の大内尉義院長（東京大学名誉教授）、徳島大学病院の座間味義人准教授、大阪大学の萩谷英大助教、千葉大学病院の三上奈緒子氏との共同研究で、日本国内におけるポリファーマシー（多剤併用）の現状を明らかにしました。本研究成果は、2018 年 10 月 6 日付の米国老年医学会誌のオンライン版に掲載されました。

ポリファーマシーは多くの薬剤を同時に使用している状況を指し、薬剤同士の予期せぬ相互作用や、医療費の増加などが懸念されていますが、これまで国内の状況については明らかになっていませんでした。本研究では、厚生労働省の診療報酬明細情報を活用して、国内における 2010 年～2016 年のポリファーマシーの状況を明らかにし、2012～2013 年を転換点として、ポリファーマシーの状況が統計的に改善していることを示しました。本研究成果を基盤に医療の改善に役立てることで、医療関連の SDGs への貢献が期待されます。

◆研究者からのひとこと

今回の研究は 7 大学・大学病院の研究者による共同研究です。さまざまな研究者の視点を一つの研究に取り入れることがより社会に役立つ研究の実現において重要であると感じています。



小山助教



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

ポリファーマシーは多くの薬剤を同時に使用している状況を指します。薬剤数が多くなると、治療効果以外に、薬剤同士で効果が増強や減弱を引き起こす相互作用を生じさせる可能性が高まることから危惧されています。さらに薬剤費や副作用対応に係る医療費の増加にも影響を及ぼすため、ポリファーマシーは世界的にも懸念が高まっています。したがって、長期的なポリファーマシーの状況的確な分析・把握は、医療の質の向上や、持続可能な医療制度のためにも必要とされていますが、これまで日本国内の状況については明らかにされていませんでした。

<研究成果の内容>

本研究では、日本政府が医療ビッグデータ・オープンデータの活用を推進する中、厚生労働省が集計・公開している診療報酬明細情報を活用することで、国内におけるポリファーマシーの状況を明らかにしました。2010年～2016年におけるポリファーマシーの状況を分析した結果、2012～2013年を転換点として、ポリファーマシーの状況が統計的に改善していることが示されました。しかしながら、高齢の方は複数の疾患を患うことが若年者より多く、使用する薬剤数はやむを得ず増加することから、全人口に占める高齢者の割合が今後も増え続ける日本においてポリファーマシーは大きな問題であり続けることが想定されます。したがって、今後も質の高い医療を効果的に提供するため、薬剤の使用状況を継続的にモニタリングし、それらの詳細な分析に基づく改善策を継続的に講じていく必要があることも示唆されました。そのため、国民に提供される公的医療サービスに関する医療ビッグデータやオープンデータを活用する学術研究の重要性は一層増していくものと思われます。

<社会的な意義>

本研究の成果のように、学術的な分析に基づく医療の実情を詳細に把握することは、日本が世界に誇る公的皆保険による医療制度の持続可能性を向上するうえで不可欠であり、日本の事例が今後、同じく高齢化が進む国や地域での持続可能な医療の実現に役立てられることで、医療関連の持続可能な開発目標（SDGs）への国際的な貢献も期待されます。

■論文情報

論文名：Trends in polypharmacy in Japan: a nationwide retrospective study

掲載紙：Journal of American Geriatric Society, Vol. (2018)

著者：Hiroshi Onoue, Toshihiro Koyama, Yoshito Zamami, Hideharu Hagiya, Yasuhisa Tatebe, Naoko Mikami, Kazuaki Shinomiya, Yoshihisa Kitamura, Shiro Hinotsu, Toshiaki Sendo, Yasuyoshi Ouchi, Mitsunobu R. Kano.

DOI：https://doi.org/10.1111/jgs.15569

URL：https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/jgs.15569



＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科

教授 狩野光伸

（メール） mitkano@okayama-u.ac.jp

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬）

助教 小山敏広

（電話番号） 086-235-6585

（メール） koyam-t@cc.okayama-u.ac.jp



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。